

「第 2 回 小豆島ふるさと村全体整備基本計画策定委員会」における主な意見と対応方針（案）

項	ご意見	対応方針（案）	対応頁
ゾーニング設定・動線設定	①ゾーニングの名前について、「体験・滞在ゾーン」の「滞在」というワードは「宿泊ゾーン」と意味がかぶっているように感じるため、利用者には「体験ゾーン」がわかりやすいのではないかと。	⇒ゾーン名称は当初のとおりとする。 理由としては、滞在という言葉の意味からは、宿泊という言葉も含まれるという考え方もあるが、「宿泊ゾーン」はあくまで泊まるという事に主眼をおいたゾーンであり、「体験・滞在ゾーン」は泊まることを伴わず、ゾーン内において提供予定の体験（飲食も含む）を通して、様々な時間帯においてとどまっていたく事を想定しているゾーンであるため。	P10, 13 P19, 28
	②アクセス道路からの道の駅・海の駅ゾーンを含めたエントランスエリアの見え方が印象的であることが経営面からも極めて重要である。エリアの用途もちろん大事であるが、見え方を重要な観点として検討すること。	⇒ご指摘のとおり、エントランスは象徴的な場所であると認識しており、アクセス道路からのエントランスエリア及び海への眺望を確保した施設配置、道路計画を検討する。 具体的には、アクセス道路から海への眺望を確保した車道を付け替え、エントランスエリアには広場を配置し、エントランスから海への眺望、プロムナードなど小豆島ふるさと村のにぎわいの様子が外から見えるよう配置を想定する。	P29, 33
	③エントランスエリアから海を見通せるなど、アクセスや機能だけでなく、体験・印象としてのアクセスの検討が大事である。墓地や民地は個人所有のため丁寧な検討、協議が必要であるが、うまく取り込めると全体の提案ができるため、町で検討いただきたい。	⇒民地部分について、現時点では用地を取得する予定はないが、エントランスエリアについては見せ方を検討する。	P29, 33
	④淡路島や直島と勝負しようとする小豆島にしかないもので勝負する必要がある、サステナブルに焦点を当てるとよい。サイクリングのようにサステナブルな視点を打ち出すことにより小豆島らしさや強みができて、選んでもらえる観光地になる。	⇒世界の持続可能な観光地 TOP100 選出にあたっての取組を踏まえ、小豆島の持続可能性について情報を整理する。「サステナブルな視点」を PR するため、小豆島ふるさと村のコンセプトに「持続可能なしまづくり」を追加する。コンセプトを踏まえ、ハード・ソフト両面に対し、サステナブルな視点を踏まえた具体的な検討を行う。	P8-9, 24
	⑤小豆島町で定めている上位計画（観光分野以外も含む。）に対応するもの考える必要があり、「広域的な観光施設」を作ることで直島や淡路島とは異なるコンセプトのヒントになるのではないかと。	⇒基本計画の素案策定段階で、上位計画との整合性は図っている。広域的な観光施設については、エントランスである道の駅・海の駅ゾーンについて、移動・交通の結節点としてのハブ機能を分かりやすい表現で記載するよう検討する。	P4-5, 23
	⑥地元の人を大切にしなければならないと感じており、特に道の駅におけるメインの客層は地元の方ではないかと。地元の人と観光客が、このふるさと村で出会える場所になればよい。地元の人と観光客の用途が違ったとしても、ふるさと村で出会える場ができると面白く、そういったところは他にはなかなか無い。これらが小豆島の強みになることを期待する。	⇒いただいたご意見のとおり、小豆島ふるさと村を元々利用していた方々を含め、地元の方に利用していただくことは非常に重要であると考えており、観光客だけではなく地元利用も考えた施設配置及び機能を検討する。	P18-19
需要圏域・利用者数	⑦利用者層及び利用者数の設定は、今後の収益を図る際に一番肝心な箇所である。年間利用者数については、今後廃止されると想定される施設の数字を根拠にしているため、根拠としては、ある程度固い数字を入れるべきである。今後の市場調査で数値の妥当性の確認をすること。	⇒市場調査において、利用者層については、ファミリー層・F1 層（20～34 歳女性）を追加した方がよいとの意見があった。また、インバウンドについては、細分化が必要との意見もあった。利用者数は妥当との意見だった。したがって、基本計画には、利用者層の追加を行う。	P18-20
	⑧消費単価を上げるためには、消費額の高い層（東京、欧州からのお客様）をターゲットとする必要があり、需要圏域とターゲットが少し異なるように感じる。これらの層を意識するとインバウンドやミドルエイジ層という想定利用者層に一致するのではないかと。	⇒ご指摘のとおり、需要圏域として基本計画に関東圏を含めることとする。欧州についても、関東・関西圏経由での来客になるので、ターゲットに含めることとする。	P16-17
整備水準	⑨宿泊について、既存の施設とお客様の取合いにならないのか、今後のふるさと村周辺の状況や進出してくる宿泊事業者等を分析すること。既存施設と同じレベルを狙うのではなく、現在の小豆島の宿泊施設に無いものは何かを明確にしなければ、観光消費額の向上に繋がらないと考えている。	⇒周辺の既存宿泊施設及び今後建設予定である宿泊施設の傾向を確認し、既存施設と同じような施設になることや客層の取合いにならないよう整備方針を検討する。 具体的には、現在の小豆島に無いものとして、滞在時間を延長できる施設及び機能を導入することを整備方針としている。	P10
	⑩関係者ヒアリングでの意見が反映されていないと感じる部分もある。インバウンドも含め様々な方がお祭りに参加している様子がテレビなどで報道されていることなど、伝統行事などを材料に、ある程度ソフト面での検討も含められるとよい。	⇒「小豆島ならではの」を活かすことができる観光コンテンツなど、ソフト面についても今後検討する。 具体的には、「見せる産直・加工場体験エリア」では、地場産業を活かした商品販売、体験の実施などを想定している。	P29
	⑪「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」に連続で選ばれているため、地球環境に配慮したコンテンツを入れること。敷地内の移動手段（電動レンタバイクなど）に配慮するのも一つの案である。	⇒④同様。国の動向や、補助金等を活用し、電動小型モビリティや EV 充電設備などの設置・設置場所について検討する。	P24, 29
	⑫全体で脱炭素先進エリアとして組むこともいい宣伝になる。2,3 年で技術がどんどん発達することも含め検討していただきたい。	⇒④同様。再生可能エネルギーの利用や、⑪のとおりEV充電施設などとの組合せを検討する。	P24, 29
	⑬近年、自転車コンセプトにした道の駅も多く、ふるさと村のウリになるのではないかと。例えば、駐輪スペースの設置やエントランスの在り方を自転車向けにするなど検討してもよい。	⇒サイクリストもターゲットに含まれると検討しており、道の駅付近には駐輪スペースの設置を検討している。	P19, 24 P29, 33
⑭淡路島ではなく、小豆島にしかないもので勝負する必要がある。具体的に、淡路島になくて小豆島にあるものとは、サステナブルな環境である。持続可能な観光地づくりは、現在国も積極的に取り組んでいる。その点をしっかりと打ち出していくとよい。	⇒④同様。コンセプトを踏まえ、今後の整備方針及びソフト面の検討においてもサステナブルな視点をもって検討を進める。	P9, 24	
⑮エントランスと親水エリアの構造では、民間の土地のため部外者は発言できないが、ここをうまく取り込めると道の駅全体の計画として新しい提案ができると思う。民地、墓地も含めて、どこまで交渉できるかいうところは、ご検討いただければと思う。	⇒②及び③同様。現段階では民地が視界に入らないようなエントランスエリアの配置を想定している。	P25, 29, 33	

項	ご意見	対応方針（案）	対応頁
	⑩歩行者プロムナードは、現在固い舗装であるが、海の駅・道の駅というコンセプトから、捨石護岸を並べて公園の一部とするような、直線的なユニットではないデザインとして海との親水性を保つことが考えられる。	⇒今後の基本設計において、ご指摘を踏まえ検討を行う。	P29, 32
	⑪小豆島内で日帰りの方が食事できる場所が少ないという課題があり、道の駅の食事処は非常に貴重な場所である。日帰りで出来るだけ短時間で食事されたい方やサイクリストの方がこういった形の食事を求めているかどうか検討いただきたい。	⇒日帰り・短時間滞在者(サイクリスト、クルージング等)に対する、機能・施設配置及び提供メニュー等については、引き続き検討(関係者ヒアリング等を踏まえ)を行う。	P18-19
	⑫飲食は、様々なターゲットに対応することが必要。飲食場所を1か所に集めるのではなく、子どもと一緒に入れるエリアや、高級志向なエリア、海に入った人が入れるエリアなど、エリアによって分かれていると使いやすいのではないか。	⇒民間事業者の意向(次年度以降も引き続き対話を予定)を踏まえ、今後具体的な配置・施設機能及び提供メニュー等を引き続き検討を行う。	P26-30
	⑬公園で遊んでいる人のカウントはできないが、肌感でいうと、一定層ではあるが地元の方の利用は多いと感じるため、島民が気になる場所ではないか。	⇒元々小豆島ふるさと村を利用されていた島民の方々の需要は、引き続きカバーする必要があり、現在ある公園については、小豆島ふるさと村内で代替できる機能(芝生広場など)を確保できるよう検討する。	P28-29
	⑭宿泊について富裕層をターゲットとするのであれば、利用料金も上がると思うが、今の国民宿舎にあるコンベンション機能はどうするのか。参入する事業者任せになるのか。	⇒⑬同様。元々小豆島ふるさと村を利用されていた島民の方々の需要は引き続きカバーする必要がある。⇒仮に富裕層をターゲットとした場合、全てを高級志向にするのではなく、レベルを区別して様々な層が利用できる施設となる等、元々の需要も踏まえた整備方針とする。⇒また、コンベンション機能については、小豆島ふるさと村内で代替機能を検討するのか、町内の他の施設で代替機能を確保するのか、民間事業者の意向(次年度以降も引き続き対話を予定)を踏まえ検討したい。	P18-19
	⑮運動場では、年配の方々が健康増進のためにグランドゴルフをしており、これらの機能がなくなってしまう点が気になった。観光客ありきでリニューアルされ、地元が排除されているように感じると地元の愛着がなくなってしまうことが懸念される。	⇒小豆島ふるさと村を全面的に観光客の施設とするのではなく、地元からも人が来てもらえるような施設方針とする。グランドゴルフができる運動場については町内の他施設で代替可能であると考えており、小豆島ふるさと村では設置予定の広場等で経過してもらうことを想定している。	P18-19 P26-30
	⑯直島や淡路島は、島外から新たにコンテンツを入れているが、ふるさと村は昔からある施設のため、地元の方々に愛着を持ってもらえることが結果的に小豆島の課題解決に繋がるのではないか。	⇒ご指摘のとおり、元々小豆島ふるさと村を利用されていた島民の方々の需要は引き続き踏まえ、小豆島ふるさと村を全面的に観光客の施設とするのではなく、地元からも人が来てもらえるような施設方針とする。	P18-19
	⑰施設規模が大きい場合、道の駅・海の駅を訪れた人が上のレストランまで行くだろうか。	⇒小豆島ふるさと村内は、高低差が大きく敷地も広いこと、小豆島ふるさと村内の移動手段の導入については今後検討する。また、道の駅を訪れた方が宿泊ゾーンまで行かずとも飲食できるよう、道の駅・海の駅ゾーンにも飲食機能を設置する方針である。	P24-25, 29
	⑱現在はハード整備中心の検討であるが、ソフト整備も考えること。	⇒ソフト面の機能導入については、今後詳細を検討する。今年度は、整備方針を含めた基本計画を策定し、次年度以降具体的な事業者の参入の検討も踏まえ、ソフト整備を進める予定である。	P36
	⑲ハード面の整備だけではなく、収益面の課題を明らかにする必要がある。運営の率直な話を聞き、現実的な問題であると感じた。人材不足等はすぐに解決できる問題ではないため、今後本計画を進めながら、町が中心となって考える必要がある問題である。	⇒ご指摘のとおり、運営面の課題については今後も検討が必要であり、特に人材不足は離島であるためより深刻である。市場調査では事業者から雇用問題についても意見をいただいております。供用直後はプロパー人材を派遣し、徐々に地域の方々を採用していく等の対応ができるという意見も聞かれた。	P5, 参考資料
	⑳せとうち観光専門職短期大学では、小豆島に興味を持っている学生が多く、地域の祭りのボランティアとして学生が参加した。専門学校においては、留学生が小豆島で宿泊し、福祉施設で実習をしつつ学校へ通っている。このように人材確保の観点から、卒業後も小豆島に残ってもらい、新たな人材として活動してもらうなど、学生時代から小豆島の施設で活動することも視野に入れること。	⇒ご意見のような活動は、今後も続けていくことが必要であり、小豆島ふるさと村において人材教育ができる場となり、そこで教育実習を受けた学生等が社会人になって1/Uターンしてもらえるような場になることが理想である。このようなソフト面の導入・連携も今後具体的に検討を進める。	P5, 参考資料
	㉑地元のことをいかに考えられているかが、サステナブルという視点には重要な検討項目である。観光客を求めすぎて、単価を上げるとあまり人が来ず、結局地元の人にも来ないなど非常に中途半端な状況があり得る。あえて単価を下げて地元の方も買いに来るような施設機能の考え方を一部取り入れるなど、地元の方にいかに日常的に使ってもらうかの方策を考える必要がある。	⇒完全に観光客向けの施設とするのではなく、地域住民も利用できるような機能や施設配置が必要である。市場調査では、「地域住民の利用により平日の売上も維持することができる、道の駅は平日に地域住民の利用を促すための商品(敢えて全国の商品を置く、少し高級な商品を置いて地元スーパーと区別を図る。)を置く。」などの意見が聞かれた。	P18-19, 参考資料
の市場 進め調 査方	㉒今後、市場調査を進めていくうえで、宿泊事業者へご意見を伺うことになると思うが、特に宿泊ゾーンは、今後小豆島に入ってくる宿泊施設がいくつもあると聞いているため、そのリサーチから必要になる。この案で決めてしまってもよいのかという不安がある。提示する素案に縛られず、新たな発想のご意見をいただけるように事業者案内すること。	⇒市場調査の実施要領に「単なる既存施設の改修・補修だけではなく、全面的にリニューアルを含む提案を求めています。」や「以下のゾーン(エリア)に限らず、自由な提案を求めます。」を追加し、調査を実施した。事前説明会及び対話時においても、改めて町のスタンスとして強調して説明を行った。その結果、事務局の(案)に縛られることなく自由な提案をいただいた。(※別紙参照)	参考資料